



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/12 (月)				振替休日			米: 財政収支 (1月)
2/13 (火)	+ 1,000	▲ 28,000	▲ 27,000	国庫短期証券発行償還 (3M・6M) 国債発行 (5年)	国債補完供給 CP等買入 ▲ 100	国債買入 + 14,300	日: 国内企業物価指数 (1月)
2/14 (水)	+ 1,000	+ 5,000	+ 6,000			CP等買入 + 4,000	欧: ユーロ圏GDP (4Q) : ユーロ圏鉱工業生産 (12月)
2/15 (木)	トン	+ 68,000	+ 68,000	国債発行 (10年CTB・個人) 源泉税揚げ 年金定時払い			日: GDP (10-12月期速報) : 鉱工業生産 (12月) 米: 鉱工業生産 (1月)
2/16 (金)	トン	+ 2,000	+ 2,000		国債買現先 ▲ 31,100		米: PPI (1月) : ミシガン大学消費者マインド指数 (2月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、国債買現先オペ等により、前営業日対比6兆700億円増加の536兆3,500億円から始まった。その後、国債発行、国債買入オペ等の要因により変動し、9日には、535兆3,700億円 (速報) まで減少し越週となった。

無担保コールON物は週初▲0.008%から始まった。その後は取り手の調達意欲が強まったため上昇基調を辿り、週末4日積みである9日の同金利は▲0.005% (速報) まで上昇した。

ターム物は1W~1M物を中心に▲0.015%~▲0.001%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、13日に国内企業物価指数 (1月)、15日にGDP (10-12月期速報) の公表、海外では14日にユーロ圏GDP (4Q)、16日に米PPI (1月) の公表などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

## &lt;レポ&gt;

足許GCは、週初は買い現先オペがオファーされ、▲0.08%の出合いが中心となった。その後は▲0.10%~▲0.07%のレンジで推移し、発行が重なった9日には一時▲0.05%の出合いが見られたが、後場には買い現先オペがオファーされ▲0.11%近辺まで低下した。

SC取引は2年454~457回債、5年149~165回債、10年350~373回債、20年185~187回債、30年69~81回債、40年14~16回債などに引合いが多く見られた。

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約9,100億円で、週間償還額 (約7,900億円) を上回った。発行市場は、機械や石油製品等の業種にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の27兆3,116億円から8日時点で27兆3,486億円と増加した。発行レートは概ね0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。8日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.007% (前回0.003%)、平均落札レート0.019% (前回0.012%) と按分・平均落札レートが共に前回比で上昇した。

来週の週間償還額は、約1兆円となっている。発行市場は、祝日により営業日数が少ないが、5・10日発行が予定されるため、活況なマーケットを予想する。発行レートは、金融政策修正の警戒感等から、発行期間の長い銘柄等については上昇余地を探る展開が見込まれる。

## &lt;TDB&gt;

8日の6M (1211回債) の入札は、最高落札利回り▲0.0882% (前回債▲0.1583%)、平均落札利回り▲0.1042% (前回債▲0.1723%) となった。9日の3M (1212回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1109% (前回債▲0.1340%)、平均落札利回り▲0.1222% (前回債▲0.1440%) となった。

来週は、16日に3Mの入札が予定されている。